

## 会 議 録

会議の名称		令和3年度第2回つくば市在宅医療・介護連携推進協議会	
開催日時		令和3年(2021年)12月20日(月)	
開催場所		201会議室・オンライン会議により実施	
事務局(担当課)		福祉部地域包括支援課	
出席者	委員	飯岡 幸夫会長、田宮 菜奈子副会長、津野 義章副会長、長 卓良委員、志真 泰夫委員、成島 淨委員、加園 真樹委員、鈴木 真美委員、芥川 知己委員、斉藤 秀之委員、岩本 美香委員、中川 広子委員、下村 千里委員、小關 剛委員、飯泉 孝司委員、松浦 幹司委員	
	その他		
	事務局	地域包括支援課：会田課長、飯島補佐、風見保健師長、藤田係長、久保主査、山村主事 保健部：黒田参事	
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数 2人
非公開の場合はその理由			
議題		(1) 令和3年度つくば市在宅医療・介護連携推進事業進捗状況報告 (2) 令和4年度つくば市在宅医療・介護連携推進事業の方向性について (3) ありたい姿の修正案について (4) 令和4年度つくば市在宅医療・介護連携推進協議会実務部会(案)	
会議次第	1 開 会 2 あいさつ 3 協議事項 (1) 令和3年度つくば市在宅医療・介護連携推進事業進捗状況報告 ・各部会から事業報告(資料1) ・実態把握アンケート結果報告(資料2) ・目標値の設定(案)について(資料3) (2) 令和4年度つくば市在宅医療・介護連携推進事業の方向性について ・各部会から方向性の説明(資料4) (3) ありたい姿の修正案について(資料5) (4) 令和4年度つくば市在宅医療・介護連携推進協議会実務部会(案)(資料6)		

4	その他
5	閉会

事務局	<p>それでは定刻になりましたので、第2回つくば市在宅医療介護連携推進協議会を開催いたします。</p> <p>本日は、公私ともお忙しい中、つくば市在宅医療・介護連携推進協議会にご出席いただきまして、ありがとうございます。本日司会進行します地域包括支援課会田と申します。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>次第に沿って進行をさせていただく前に、新委員の紹介をさせていただきます。荒井委員が9月末で退任されまして、後任につくば市ケアマネジャー連絡会から、鈴木真美委員が就任くださいました。ご報告いたします。それでは鈴木委員、一言御挨拶をよろしく願います。</p>
鈴木委員	<p>介護支援センターつくばでケアマネジャーをしております鈴木と申します。どうぞよろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは次第に沿って進行いたします。開会にあたりまして、飯岡会長より御挨拶をお願いします。</p>
飯岡会長	<p>皆様こんばんは。本当にお忙しい中、ありがとうございます。</p> <p>在宅医療・介護連携推進会議も今年度2回目になります。</p> <p>今年度ももう少しで終わり、そろそろ令和4年度の方向性というのも、各部会で協議していただいて、来年度どういう形でやっていくかっていうことを、今回皆さんに発表していただきたいと思えます。本日はよろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは次第により協議事項に入ります。</p> <p>会議の進行は、つくば市在宅医療・介護連携推進協議会開催要綱第5条第1項の規定に基づき、会長が議長を務めることとなっております。飯岡会長、よろしく願いいたします。</p>
飯岡会長	<p>それでは会議を始めさせていただきます。協議が始まる前に、市政運営の透明性の向上を図ることを目的とする「つくば市附属機関の会議及び懇談会等の公開に関する条例」により、つくば市在宅医</p>

<p>田宮委員</p>	<p>療・介護連携推進協議会開催要綱第5条第2項に基づき、会議を公開としておりますことをお伝えさせていただきます。</p> <p>また本日は会議時間を従来より短くして開催することになっておりますので、スムーズな議事進行に御協力をよろしく願いいたします。</p> <p>これより協議事項に入ります。</p> <p>(1)令和3年度つくば市在宅医療・介護連携推進事業進捗状況の報告とあわせて、(2)の年度の方向性について、各実務部会の議長から5分以内で説明をお願いいたします。</p> <p>評価部会の田宮委員よろしく願いいたします。</p> <p>はい。KPIということでありたい姿を数値化して、どうやってフォローしていったらいいかということで、色々なアンケートも駆使して、数値化できるものを部会の方で検討しました。実態把握の調査としては、介護保険認定者に対するアンケート調査を新たにやって、その内容等も含めて第2回の部会で、具体的な数値の設定を行いました。</p> <p>資料4の1で成果と課題がまとめて、ありたい姿の進捗を確認する指標を絞り込むことができました。独自のアンケートを開始し、そこから今までわからなかった数値などが出てきています。</p> <p>細かいことは資料3にありまして、後で事務局から説明します。目標値の設定等もこれは大事なので少し高めに設定しましょうとか、あんまり高いとハードルが高いのでどうしましょうとか、議論しながら目標値の設定を行いました。</p> <p>特にその目標値の設定で良かったと思うのは、関係する方の中で、目標値の議論をしたことがすごく良かったと思っています。</p> <p>それから、他課と連携して、介護保険の更新の時に、アンケートを入れるっていうことは、たくさんの人に確実に定期的に配れるので、非常に効果的ではあるので、それが実現したということはとても大きいことで、とてもいい仕組みになったと思います。</p> <p>更には、被保番を利用者の方に記入していただくところがあるので、そこは印刷して送付するという意見も出ました。第一歩としては非常に重要なアンケートの仕組みができたと思っています。</p> <p>今後は更なる連携を深めてアンケートを良くしていく、また活用も、あと評価がある程度出たところでどういうふうに改善策につなげるとかが課題とっております。以上で御説明とさせていただきます。</p>
-------------	---

飯岡会長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>2番目に啓発講座部会、私からお話します。</p> <p>啓発部会は、7月10日に1回、それから11月1日に2回の会議を行い、今後の部会の内容や11月には動画で配信しようということで、オンライン講座を11月21日から開始しました。内容的には「つくば市の在宅医療について」ということで成島先生にそれから「はじめての在宅医療1 わが家がいちばん」柴原先生の方で、それから「はじめての在宅医療2 自宅で迎える命の終わり」ということで有田先生の3人の先生の方で、オンラインで講座を配信していただいています。</p> <p>周知の方法は、広報誌、市のホームページや公式のツイッターあるいは市長のツイッター、つくばファンクラブ、あるいは窓口の広報モニター等々でやっています。とにかく、講座で配信しているということを市民の皆様にもアピールするにはどうした方がいいか色々考えまして、五十嵐市長の顔が見えて、市長ツイッターを使った方が一番市民の注目を浴びるのではないかと考え、市長に承諾いただいた次第です。</p> <p>それから、やはり集合で面と向かって話し合いたかったのですが、コロナの問題があって、それが実現できなかったということがあります。最近ちょっとコロナが低めになっているのですが、今回もまたオミクロンの問題があって、今後の見通しが立たないので、オンライン講座で動画を配信して、市民の皆様にも周知した方がいいのではないかと考えております。もしコロナが収まれば、対面での講座を開催したいと考えております。以上です。</p> <p>次、3番目に研修部会、下村委員よろしくお願ひいたします。</p>
下村委員	<p>3番目の研修部会についてご報告いたします。</p> <p>研修部会は第1回の部会を7月15日に行い、研修内容について協議しました。研修会は9月21日に行い参加者57名でした。こちらも新型コロナの影響がございまして、Zoomで研修を行いました。が、昨年に比べますと、講師の先生も私どもも事務局もZoomに慣れてきましたので、講義を聞いたり、グループワークをしたり、チャットに入力したりと、有効な形で研修ができました。</p> <p>演題は「地域リーダーに求められる家族支援の視点について ～家族支援につなげる仕組みを考える～」というテーマでした。講師は茨城県ひきこもり相談支援センターの浅沼先生とつくば市障害者地域支援室の福田先生のお2人をお願いしております。</p>

実際どのぐらいのひきこもりの方がおられるのかとか、どういったご相談があるのかとか、そういった状況を存じませんでしたので、先生から県の状況、またつくば市の状況を具体的に教えていただきました。

訪問してみるとお家にまたどなたかいらっしゃる、ひきこもりではないかと思う、でもどうしていいかわからない。相談していいのかと迷う事例がたくさんあると皆おっしゃってしまして、そういった時に県に相談もできますし、地域包括支援センターに相談して現場から色々発信していてもいいと心強い御支援をいただき、皆とてもいい研修だと感じたと言っていました。

第2回の部会ですが11月1日に行い、1回目の振り返りと2回目の研修の計画を行いました。2回目の研修は令和4年2月15日にZoomで行う予定です。演題は「本人・家族に寄り添う意思決定支援とグリーンケア（仮）」ということで、講師は浄土真宗恵光寺の僧侶の方で、公認心理師の宗崎先生をお願いする予定です。そして、第3回の部会は当日2月15日の研修終了後に行う予定で、振り返りと次年度の計画を予定しています。

続きまして、資料4をご覧ください。受講者のアンケート結果は満足度も高く、研修内容としては適切だというような意見が具体的な意見たくさん書いていただいています。けれども、ケアマネジャー等、参加してくださる方が固定されているということも感じているところです。

令和4年度の方向性としては、少し研修の参加者が変わった方がいいのではないかとということで、新型コロナでヘルパーさんたちがどんな感染対策をしていいかわからないで困っているとか、色々な声がありましたので、ヘルパーさんたちを対象にして、家の中のゾーニングの研修のような具体的な技術の研修を来年度やっていった方がいいのではないかと考えております。

また薬剤師さんとケアマネジャーさんの意見交換も希望がありましたので、そういったことも考えております。それから、ICT情報連携ツールですけれども、他の市町村では共通の連携ツールを使っていると聞いています。つくば市ではまだ共通ツールはございません。そういったこととか、FAXをメールにした方が時間を節約できるかとか、紙よりはPDFにした方が記録も保存もいいのではないかなど色々な意見が出ました。そういった情報の取り扱い、さばき方についても、個人情報も問題はあるかと思いますが検討してはどうかという意見が出ております。以上でございます。

飯岡会長	<p>ありがとうございます。それでは、4番目、意見交換部会、加園先生よろしくお願ひします。</p>
加園委員	<p>はい。意見交換部会は第1回を8月18日に行いました。その際のテーマとしては医療関係者との意見交換会を行う。連携ツールに関して現状の整理を行い、11月に連携ツールに関するアンケートを実施するということになりました。</p> <p>10月20日に、参加人数27人で意見交換会を行いました。</p> <p>第2回の部会は12月10日に行い、病院関係者との意見交換会の振り返りを行いました。成果と課題としては、Zoomとか皆慣れてきてまして、こういう時期でもスムーズにいろんなことが共有できたということです。課題として、医療・介護専門職への研修の企画・実施・評価部会と、その内容が重なる部分があった。あとは研修部会と一緒にですけど、どうしても参加者が固定されているということが課題と言えます。</p> <p>次年度は、研修部会と意見交換部会を統合してグループワーク等を含めた対面の研修会が、次年度以降のコロナの情勢にもよりますけど、できれば望ましいということになりました。</p> <p>あとは研修会の職種をヘルパーさんとかに多少変えてみたらどうか、それも入社後何年目とかにしてはどうかなんて意見も出ました。あともう一つは、薬剤師とケアマネジャーとの意見交換会をやれたらいいという話になりました。以上です。</p>
飯岡会長	<p>ありがとうございます。5番目、情報発信部会、志真委員よろしくお願ひします。</p>
志真委員	<p>それでは、資料に沿ってご説明します。</p> <p>第1回の部会は8月2日に行いまして、部会を今後どうするかということで、まず事務局の方から、市のホームページ、在宅医療介護連携事業のホームページ更新の話がありまして、それについて今後検討しましょうとなりました。それからミニ知識、サービスマップ等、つくば市が提供している情報について見直しをする。それからICTを使った情報連携について調査をしたらどうかということで、10月から11月にかけて地域包括支援課を中心に実態把握調査を行いました。これは後程詳しい報告があるかと思いますが、先ほども指摘がありましたが、やはりまだつくば市では、電話とFAXによる連携が中心ということがこの調査で浮き彫りになりました。</p>

<p>飯岡会長</p>	<p>第2回部会は、それを受けてホームページの改修の状況、それから今後どうするかを話し合いました。ホームページについては、一部つくば市のホームページでは実現できないところがあるということで、つくば市医師会のホームページにある機能も使ったらどうかという話がありました。後程、具体的に提案をいたしますが、つくば市医師会の在宅医療介護のホームページも来年度以降併せて更新をしていってはどうかと思っております。ホームページを中心とした、情報発信というのを主にこの年度は行いました。以上です。</p> <p>ありがとうございます。それでは6番目の活用普及部会、成島委員よろしくお願ひします。</p>
<p>成島委員</p>	<p>今年の7月27日に第1回部会を行い、第2回目の部会が11月15日に行われました。その間に連携ツールに関する実態調査ということで、対象は病院の医師、訪問看護師、ケアマネジャー、退院支援調整部門の看護師及びソーシャルワーカーに対して行いました。</p> <p>そのことによって、今回の部会のテーマであるお薬手帳、エチケットと退院前情報共有チェックリストの活用普及に関する検討を行いました。やはり連携ツールとかお薬手帳の活用がある程度、進んでいることは分かったのですが、問題点もいくつか出てきました。</p> <p>一つはお薬手帳に関しては、最近はスマートフォンを持っている方が多いので、スマホに情報を取り込むことが非常に多くなっていること。ただそれがやはり、逆に言うと、そのためにそれを各病院等で見ることがなかなか難しい場合があるということで、これに関しては今後どう対応していくか。やはりソフトが幾つかあるようで携帯も当然アップルとアンドロイドでは違うわけで、その辺りの部分もあるので、やはり問題点が出てきたのではないかという話が出ました。</p> <p>それから、やはり一番の問題は、退院時の退院前情報共有チェックリストの普及がなかなか進まないこと。これに関してはどうやって普及を図るということでは、各職種、調剤薬局、院内薬局、退院調整看護師等との意見を聞きながら、少し活用が進むようにしていかないといけないのではということになりました。ただ、連携タイムと病院のケアマネと専門職の窓口活用一覧は、活用が進んでいくことが把握できました。</p> <p>今後としては、活用普及を進めるためには、皆さんが使えるよう</p>

	<p>に負担にならないような工夫が必要だということで、今後も意見を聞きながら使い勝手よく改良していく方向となりました。以上です。</p>
飯岡会長	<p>ありがとうございます。それでは7番目、その他の実施状況ということで事務局より説明よろしくをお願いします。</p>
事務局	<p>その他の実施状況についてご報告いたします。</p> <p>お薬手帳の利用状況の調査を20歳以上の市民を対象にアンケート調査を行いました。結果については、この後、実態把握アンケート結果報告でお話をさせていただきます。</p> <p>次に在宅医療・介護に関する研修会を10月に主任介護支援専門員を対象に、また来年2月に出前講座の申し込みがありました市民を対象に実施を計画しています。また現在、官民協働事業として「わたしの生き方ノート」というエンディングノートの制作に取りかかっております。完成が2月を予定しており各地域包括支援センターで希望者に配布を予定しています。以上です。</p>
飯岡会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま事業の進捗状況について、何か質問等あれば挙手の上によろしくをお願いします。</p> <p>よろしいでしょうか。もし何か、後日聞きたいことがありましたら事務局に連絡して聞いていただければと思います。よろしくをお願いします。</p> <p>続いて協議事項の中の実施把握アンケート結果報告及び目標値の設定案について事務局よりよろしくをお願いします。</p>
事務局	<p>&lt;資料2に基づき、調査結果について説明&gt;</p>
飯岡会長	<p>ありがとうございます。引き続き、目標値の設定案について資料3の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>最近数年にわたって、この指標の収集や指標の項目の設定に関して事務局と共同して作業してまいりました。</p> <p>指標の設定を振り返って、この指標をどういうふうに関後皆で活用していこうかという点と、今後事務局、主に私としての展望と、3点簡単にお話させていただきたいと思います。</p>



指標に関しては、まずありたい姿という皆さんで議論して作った理想像が言語化されたものに整合する形で指標を考えました。指標と申しますとどれだけリソースがあるか、そのリソースがどういう働き方をするか、そしてそれがどんな結果を出しているか、という3つの観点でよく考えられます。今回、やはりアウトカムと言いますけど結果の部分がたくさん含まれています。

どのような結果があたりたい姿から照らし合わせてふさわしいかと考えたところで、やはり御本人らしい生活を送っていただくというところがこのあたりたい姿の主眼だと思いますので、御本人の視点、御本人がどれぐらい満足してどれぐらい幸福な生活を送られているかというところは、最終的に目指すところだと思いますので指標の中に入っています。

あとこの協議会の特徴としては、多職種の連携を通じてそういったアウトカムを達成していこうというアプローチを重視にしているところだと思いますので、連携の部分、すでにあるアンケートのデータとして、ケアマネジャーのみに今の時点ではなっておりますけれども入っております。

あと何度か協議会の中で御指摘いただいたものとして、介護離職ですとか、介護している御家族の負担ですとか、そこら辺を軽減していくことも非常に重要だと思いますので優先的に評価していく指標の項目としております。

これ以外にもたくさんの指標の案を作りまして、それは今後も引き続き観察はしていきたいと思っておりますけれども、看板として掲げるものとしてはこういったものを選択しました。

先ほど田宮委員からもありましたが、今回はこれまでの過去の数字をまずは集計して、それをもとに今後の目標値を各部会の皆さんから提案いただくという形をとりました。かなり当惑され、どうやって考えればいいのかとお困りになられたとは推察しますけれども、なかなか先の予測の難しいものの指標を追いかけていくためには、まずは皆さん、我々で話し合いをしながら、大体どれぐらいの数字にしていこうかっていうアイデアを出して行って、それを軸にその数値を達成するためにはどんな事業をどうやっていけばできるのだろうかという、数字は何か答え合わせとか達成できた、できなかったというよりは、こういう方向でこのぐらいの数字をまず目指してやっていこうという目標設定としての前向きな意味合いが非常に重要だと思いますので、部会で御議論いただいて、仮の数字を入れてみたことは、非常に意義があったと私は考えておりま

	<p>す。</p> <p>評価部会でも、この数字を田宮委員と筑波大学濱野委員と一緒に確認させていただき、やはり指標という意味では達成可能性が現実的でなくてはいけない面もありますので、皆さん御提案いただいた数字でおおむね評価部会の方でも皆で合意ができたところです。</p> <p>今後、いくつか絞られてきましたのでアンケートデータをより活用しやすくなったと考えております。例えば、在宅医療の周知度のところを見ましても、介護認定を受けている方の数字と、一般高齢の方の数字と若い方の数字、それぞれ書かれていますけれども、やはり若い方から数字をもう少し上げていかなきゃいけない。確か評価部会で要介護認定の方だけではなくて、もっと若い方も含めて数字をきちんと上げてあげられているかを見ていく必要があるのではないかと御提案をいただいて、全体にこの45%を入れるというお話の中になったかと思うのです。私の方で認定を受けている方の中での在宅医療の周知度を調べてみますと、介護度で分けてみましても、よく知っているという返答が増えてくるのは介護度4とか5の方が高いけども、要介護1、2、要支援の方の中ではまだもっと若い方と同じぐらいの周知度しかなかったり、そういうアンケートデータをこの指標が定まったことによって、より層別化して解析してみるとか、そういったことを今後、各部会の皆さんに考えていただくためのツールとして分析を準備していければいいかなと思っております。私の方からは以上です。</p>
飯岡会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、資料1から4まで説明がありましたけども、これについて何かご質問等あればお伺いします。よろしいですか。</p> <p>質問ないようですので、令和4年度の事業の方向性について、志真委員より提案があるということなので、説明よろしくお願ひします。</p>
志真委員	<p>私の担当している情報発信部会で先ほどの実態調査を見て、一つはICTの問題をもうちょっと来年度深くというのか具体化した方がいいのではないかと。それからもう一つは、ホームページですね。先ほど医師会のホームページのことを申し上げましたが、ホームページをもうちょっと充実させていく必要があるのではないかとということに来年度したいと思っております。</p> <p>これは、よく見る地域包括ケアシステムの概念図ですけども、</p>

この中で医療と介護とそれから患者さんの住まいとの連携というのがこの協議会の中心的な課題だと思います。

これは、実は厚労省の手引きに載っているその在宅医療・介護連携の概念図です。御覧になってわかるように、必ずしもつくば市の地域の状態を的確に表現しているとは思えないということで、地域包括支援課の方で作成した図を今ホームページに掲載をしております。

これは北海道のある自治体の図ですけれども、かなり具体的に在宅医療・介護連携の概念図を自治体の状況に合わせて表現をしております。来年度、つくば市医師会ともすり合わせた形で、在宅医療・介護連携事業の概念図を、もうちょっとホームページで工夫した方がいいのではないかと考えておまして、それが一つの提案の方向です。

これは、図をつくば市に合わせて作り直すというだけではなくて、やっぱり具体的に在宅医療・介護連携のこの事業がどういう考え方に基づいて進められるかということをも落とし込むと考える方がいいので、私どもの部会だけではなくて協議会全体にもお諮りして、来年度はこういった図を作った方がいいのではないかと。その上でこの丸で囲んであるところは、要するに連携をどうやっていくかっていうことを、今後考える必要があるということで、この範囲をカバーするような連携ツールを来年度は考える必要があると思います。

先ほど実態調査で報告ありましたように、つくば市の現状は、電話・FAX、部分的には電子メールが現状だと思います。でもここにありますように、電話はやっぱりタイミング合わないとなかなかコミュニケーションが取れないとか、FAXや電子メールを誤送信してしまうようなことがあって、電話、FAX、電子メールがだめなんじゃなくて、これに加えてさらに医療介護専用 SNS をつくば市としても検討していく必要があるのではないかと。利点は例えば患者、利用者に関する情報を時系列で理解ができ、ツールによってはスタッフと専門職と患者家族を分けて情報をやりとりするというような仕組みもあります。

それから最近では、この専用 SNS はセキュリティ対策がとられて、比較的安心して利用できる。スタッフが都合のよい時間に読んで情報発信したり、答えを書いたりすることができる。何よりもいいのは、1回の投稿で関係している人全員に伝達することができるツールと。そういったことを含めると、やはり医療介護専用の SNS

飯岡会長	<p>を導入していく必要があるのではないか。</p> <p>これは概念図です。医療・介護連携を進めやすい環境がこれによってできる可能性があるのではないかということです。</p> <p>ではどういうツールを使うのだということで、現在いろんなツールが出ております。メディカルケアステーション、カナミック、電子@連絡帳、バイタルリンクといったものが一般的に提供されておりますが、やはり利点欠点いろいろあります。</p> <p>しかし、いつまでも使わないというよりは、むしろこれらの利点欠点をよくこの協議会でも検討した上で、そしてつくば市としてどうしていくかっていう方向性を出していく必要があるのではないか。厚生労働省からも日本医師会からも、こういう専用 SNS、クラウド SNS をまず利用して欲しいと。オープンやっぱりまずいのではないかと。それからセキュリティについては、現在は TLS1.2 というのがもう既に普通にやられておりますので、それをきちんと守れば問題ないのではないかと。3番目の問題はですね、原則として BYOD は私用のデバイスを使うことはまずいという、これは厚労省のガイドラインでもそのようになっています。そのデバイスはどうかということですが、現時点ではやっぱり各事業所で購入するしかないのではないかと思います。</p> <p>例えば市がこの事業の中で補助する話もちょっと出ましたが、色々調べるとこの医療・介護連携事業の中でそのデバイスについての補助っていうのは、できないということになっているらしいのですね。これについても、今後検討する必要があるかというふうに思います。</p> <p>現状は評価できましたので来年度は一步進めて、この多職種の情報共有ツールをどういうふうに具体的に導入していくかということに進む必要があるのではないかっていうのが私からの提案です。以上です。</p> <p>ありがとうございます。ただいま志真先生から説明ありましたが何か質問等ございますか。</p> <p>また事務局の方から、何か志真先生の方にご質問等あればお伺いしたいのですがいかがでしょうか。</p> <p>よろしいですか。それでは、ただいまの内容については事務局が持ち帰って検討しながら、今度の会議の時にまた議題として上がるとは思いますけど、せっかくの提案でございますので検討していただけたらと思います。よろしくお願ひします。</p>
------	--

	<p>それでは、特にご質問ないようですから、(3)のありたい姿、修正案について事務局から説明よろしく申し上げます。</p>
事務局	<p>&lt;資料5に基づき、修正案の説明&gt;</p>
津野委員	<p>先ほどのありたい姿1のところですけど、在宅医療・介護を必要としている方が希望の最期を迎えることができるということが最終的な前提の理念となっておりますので、最期という言葉も下のところで入れたいと考えておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひいます。</p>
飯岡会長	<p>その他、事務局の方から何かございますか。よろしいですか。</p> <p>ただいまの事務局の方からの説明に何かご質問等あればお伺ひしたいのですが、何かご質問ありますか。</p> <p>よろしいですか。それではないようですから、次、令和4年度つくば市在宅医療・介護連携推進協議会実務部会の案について、事務局の方から資料6の説明よろしくお願ひします。</p>
事務局	<p>&lt;資料6に基づき、実務部会の案について説明&gt;</p>
飯岡会長	<p>ありがとうございます。ただいまの説明に何か質問等あればお願ひしたいのですがよろしいでしょうか。</p>
志真委員	<p>志真ですけど、よろしいですか。</p>
飯岡会長	<p>はい、どうぞ。</p>
志真委員	<p>情報発信部会ということになっていますが、今私が説明したように情報発信も入りますけれど、情報共有というふうに略称ですかね、情報共有部会、情報集約ではなくて情報共有と情報発信の検討部会というふうに名称を変更していただいた方がいいかなあと思ひいます。</p>
飯岡会長	<p>事務局いかがでしょうか。また、委員何かご意見があればお伺ひしたいのですが。</p>
事務局	<p>今の志真先生の御提案いただきまして検討していきたい、そのよ</p>

飯岡会長	<p>うに進めていきたいと考えます。</p> <p>ありがとうございます。その他意見ございませんでしょうか。それでは、他に御意見がなければ進行を事務局にお返しいたしますのでよろしくをお願いします。</p>
事務局	<p>それでは事務局の方から2点ほどお伝え申し上げます。</p> <p>年度当初には予定をして第3回目の協議会を予定していたところですが、事業もほぼ終了しておりますので、書面のみの報告とさせていただきますと思います。</p> <p>2点目ですが、本協議会の委員の任期が令和4年3月31日までとなっております。</p> <p>現在画面共有をさせていただいておりますが、新委員の構成につきまして、今各事務局をお願いをしているところであります。委員の皆様には長期間にわたりまして本市の在宅医療・介護に御協力をいただきまして、この場を借りて深くお礼申し上げます。</p> <p>新しい委員につきましては、今推薦をいただいているところでございます。来年度に向けて調整中ですのでどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>委員の皆様から何かありましたら、発言をお願いしたいと思いますすがいかがでしょうか。</p>
松浦委員	<p>すみません。ちょっといいですか。</p>
事務局	<p>はいどうぞ。</p>
松浦委員	<p>これから在宅医療・介護を受けるであろうという立場からお話申し上げます。</p> <p>今色々医療介護の御専門の方々の計画もあったのですが、地域の方でおそらく地域包括支援課でもやっておられる生活支援体制づくりを進めておられますよね。これから高齢化が進んだときに老老介護の場面であるとか、いろいろ家庭的な内容で地域の支えがないとこういう在宅医療・介護も難しい状況だろうと思うのです。</p> <p>この連携推進協議会と日常生活や生活支援体制との連携があって初めて成り立つのではないかなと僕自身としては考えております。ただし、そういったときに地域がそこまで成熟されているかと、いわゆる日常生活支援体制づくりを地域で本当にやれる体制にな</p>

	<p>っているかとなると、私が住んでいる地域をみてもなかなか難しい。逆に地域は地域で、そういったことをプライベートなことが外へ出ること自体が大変だという考えをお持ちの方もたくさんおられて、ただ個人で、あなたの生涯をどこで過ごしたいかとなると自宅というのが圧倒的に多い。先程のアンケートで出ているのですが、その辺を総括的に進めていくようなことも必要と思っております。いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>今、御意見いただきましたこと、そのような形だと思います。生活支援体制整備事業も在宅医療も地域包括支援課の方でやっております。事業は別々に進めているところではあるのですが、何らかの接点というようなところも共有できるような形で検討していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
松浦委員	<p>よろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>他になければ、以上をもちまして、つくば市在宅医療・介護連携推進協議会を閉会とさせていただきますと思います。</p> <p>本日の議事録につきましては、後日送付いたしますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>本日は長時間にわたりまして、ご協議いただき誠にありがとうございます。</p> <p>以上をもちまして閉会といたします。</p>